

I 研究開発の概要

研究の目的 ……何のために取り組むのか？

地域の課題 >>> 未来への危機感 >>> 地域創生を担う人材育成

研究開発目標 ……何をを目指すのか？

育成したい人材像

産業イノベーション人材の育成

～天草の魅力ある農業で持続可能な未来を拓くリーダー～

研究開発体制

コンソーシアム委員

ローカル・サークル14名

マザー・サークル7名

○地元企業(農業・食品関係)

○JA本渡五和 ○天草市役所

○グローバル企業(デンソー)

○地域振興局農業普及・振興課長

○Ama-biz ○天草ケーブルテレビ

○イオン天草店 など

○熊本県立農業大学校校長

○株式会社デンソー新規事業部長

○熊本県商工労働部

○県立大学准教授

○未来の大人応援プロジェクト

○天草広域本部長 など

熊本県教育委員会

運営指導委員会

学校および関係部署

地域協働
推進企画部

研究
担当者

研究・実践

連携・協働

地域協働学習
実施支援員

生物
生産

研究
開発

食品
科学

生活
科学

プロフェッショナル
型コーディネーター

実践する学習プログラム

2つの研究軸を設定

課題研究型学習

「天拓プロジェクト」

探究的な学びを中心とした、プロジェクト学習

職業観の育成

フィールドワークを中心とした職業倫理の学習

地域課題を解決する
視点や能力の育成

育成を目指すイノベーターの指標

育成する資質・能力

知識・技術

思考力・判断力・表現力

主体性

協働性

倫理観

産業を変革できる3つの力

STEP1

連携する力

STEP2

協働する力

STEP3

変革する力

総合力

指標による基準を設定

カリキュラム開発の視点

◆何を学ぶか

教材・課題

カリキュラム編成

◆どう学ぶか

方法・手段

授業改革

◆何を育てるか

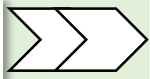
資質・能力

評価システム

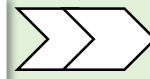
Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

3カ年を通じたカリキュラム編成

◆何を学ぶか



教材・課題



カリキュラム編成

1年次「基礎」

農業と環境

- プロジェクト学習
- 専門的知識・技術の学習

総合実習

- 外部人材による講演等
- 学習発表
- 地域理解・課題発見

農業情報処理

- 情報収集・整理・分析

【評価方法】

- ポートフォリオの記述
- アンケート評価
- 活動指標(成果物)

2年次「定着」

総合実習

- プロジェクト学習
- インターンシップ
- 外部人材による講演等
- 学習発表
- 地域活動への参加

【評価方法】

- ポートフォリオの記述
- ルーブリックによる評価
- アンケート評価
- 活動指標(成果物)

3年次「応用」

課題研究

- プロジェクト学習
- フィールドワーク
- 学習発表
- 外部人材との交流等
- 地域活動への参加

【評価方法】

- ポートフォリオの記述
- ルーブリックによる評価
- 教科の観点別評価
- アンケート評価
- 活動指標(成果物)

普通教科・商業科・特別活動

イノベーション人材の基盤育成

Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

天拓プロジェクト

◆課題解決の手法を習得

➤ 基礎・基本を系統的に学習

◆地域理解・課題の発見

➤ 周囲の大人や生徒間で
情報収集(講座・協議)

◆地域人材と協働学習

➤ 地域課題解決の手法を探究

◆フィールドワーク等

➤ 企業訪問・リモート会議等

◆起業及び就農のための学習

➤ 経営シミュレーション

◆グローバル課題と関連付けた 学び

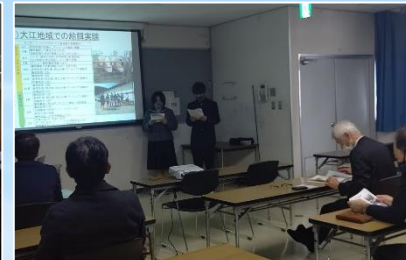
➤ SDGsの学習



1年次「基礎」



2年次「定着」



3年次「応用」



Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

職業観を育成する学習

◆就農・起業等講演会

職業人の見方・考え方

◆農業関連視察研修・起業塾

先端技術・職業現場の実際

◆プロフェッショナル人材との連携

職業人の見方・考え方

◆農業関連視察研修・起業塾

先端技術・職業現場の実際

◆成果を形にする学習

各種コンテスト等へ挑戦

◆農業関連視察研修・起業塾

先端技術・職業現場の実際

1年次「基礎」

2年次「定着」

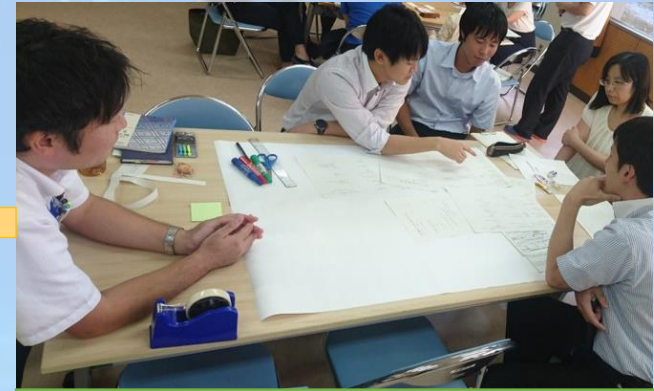
3年次「応用」



Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

授業改革「授業デザイン会」

◆ どう学ぶか >>> 方法・手段 >>> 授業改革



授業デザイン会

授業改革のねらい

◆ 教科指導力アップ >>> 生徒が理解しやすい授業

◆ 教職員間で困り感共有 >>> 授業のUD化推進

◆ 教材の利用方法改善 >>> 適切な情報提示による
生徒の授業理解向上

授業改革で得られた成果

◆ 研修・授業実践を通じた授業改善への意識向上

◆ 振り返りと共有を通じた授業改善実践例の蓄積

◆ 授業の工夫による生徒の理解力と意欲の向上



授業実践



授業振り返り会

Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

評価システムの開発

◆何を育てるか >>> 資質・能力 >>> 評価システム

ルーブリック

天草拓心高校ルーブリック

- ◆5つの領域を19小分類
- ◆4段階による評価基準
- ◆3.0以上をA基準に設定

領域	小分類	評価基準
知識・技術	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
思考力・判断力・表現力	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
主体的に学習に取り組む態度	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0

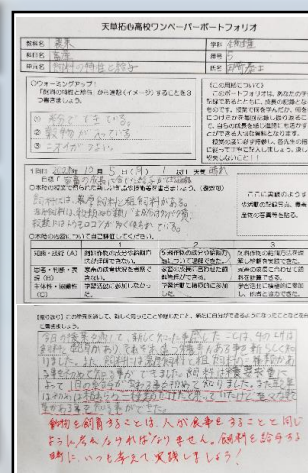
科目	単元	ルーブリック
国語	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
英語	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
数学	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
理科	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0
社会	1	1.0
	2	2.0
	3	3.0
	4	4.0

アンケート

- 天拓プロジェクトの意識調査
- 地域課題解決方法意識調査
- 職業観を図る意識調査
- 定性目標に準じた意識調査
- 定量目標に準じた意識調査

ポートフォリオ

- ◆学習の過程による知識の定着
- ◆目標設定に準じた評価
- ◆学習成果に対する外部評価等



教科の観点別評価

評価の観点別割合

	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
定期考査 (50%)	60%	30%	10%
授業 (50%)	20%	40%	40%

評価基準の点数化

	基準	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
定期考査 (50%)	A	48~60	24~30	8~10
	B	27~47	14~23	5~7
授業 (50%)	A	16~20	32~40	32~40
	B	9~15	18~31	18~31

観点別による学習評価の試行

各科目のシラバス「観点別評価基準」
令和3年度（調査）年間学習指導計画

単元毎のルーブリック

ポートフォリオ
天草拓心高校フナーポートフォリオ

評価基準に沿って目標設定

学習内容

目標が達成できたかを自己評価を実施

授業前と授業後の理解度のチェック
リフレクション

フィールドワーク等

- ◆インターンシップでの目標設定と評価
- ◆終了後のフィードバック

目標設定シート

目標評価シート

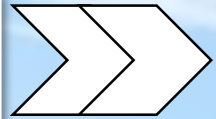
職業観育成ルーブリック

Ⅱ 具体的な取組・・・「カリキュラム開発」

カリキュラム開発のまとめ

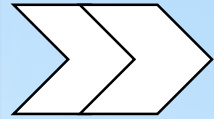
成果

◆ 学び方の変化



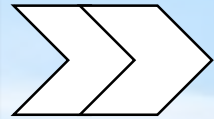
興味・関心の向上から専門的知識・技術向上

◆ 評価システム



評価の見える化による生徒の変容・目標設定

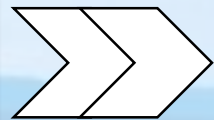
◆ 授業の改善



地域・外部人材と連携した授業づくり

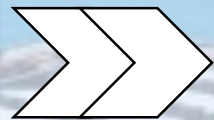
課題

◆ 他教科との連携



普通教科との連携を更に強化⇒ベースアップ

◆ 評価システム



特にポートフォリオの改善⇒他校との連携

Ⅱ 具体的な取組・・・「協働体制の構築・運用」

コンソーシアムの運用

コンソーシアム会議



研究開発における教育効果等について協議

専門分野における情報交換



委員と教職員との情報交換会

生徒主体のコンソーシアム会議

「主体性」、「思考力・判断力・表現力」育成



学びの種



「地域理解」・「専門技術習得」・「職業倫理の醸成」



教材用「資料集」の開発

- ◇地域の情報や農業の特徴等
- ◇地域の未来を創造する資料集
- 「Future Seed Book」の開発
- ★地域の未来を拓く種本★
- ◇各委員の専門分野で資料提供等

もくじ

1 はじめに	1ページ
2 地域の概要	2ページ
3 農業概要	3ページ
(1) 野菜	4ページ
(2) 果実	6ページ
(3) 畜産	8ページ
(4) 養蚕	10ページ
4 加工品等	12ページ
(1) 加工関係企業等	2ページ
(2) 農産物加工	2ページ
(3) 農産物加工	2ページ
5 関係機関	30ページ
6 びんなど	32ページ
7 観光	34ページ
8 まとめ	36ページ
9 参考文献	37ページ
別紙	

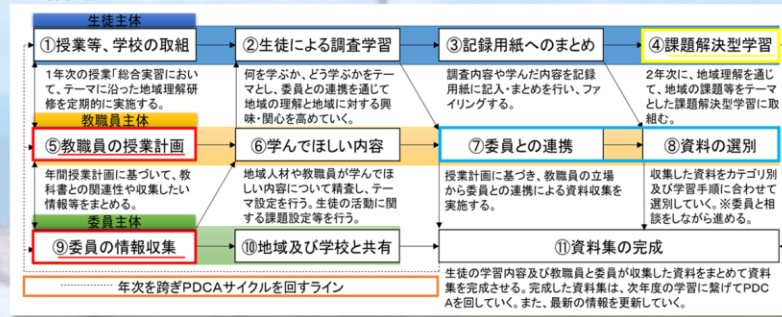
自然豊かで豊富な資源を有する天草・・・。
天草の発展を促す時、学びの種をまき始める。
今を知ることを基礎とし、チャレンジすることで何かをやる
ことができる。
天草拓心高校は、ふるさとを再生し創造する人材を育みます。

熊本県立天草拓心高等学校
地域の未来を拓く種本

Future seed book



構想フロー



Ⅱ 具体的な取組・・・「協働体制の構築・運用」

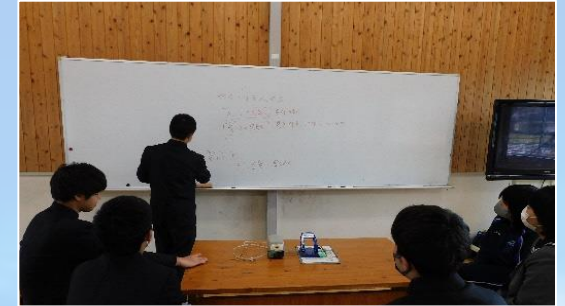
コーディネーターによるカリキュラム開発

◆コーディネート NO.1 地域理解・課題解決の手法等、講座の開設

◇マーケティング理論の導入

◇地域理解を促進する外部人材による講座等のプロデュース

◇思考力・判断力・表現力を育成するグループ討議プロデュース



生徒間のディスカッション

◆コーディネート NO.2 職業観育成に関わるフィールドワーク

◇地域のプロフェッショナル人材開拓

◇職業現場で学習の場を設定

◇起業・就農に関わる講座の開設



商品開発に関わる外部人材からの指導・助言

◆コーディネート NO.3 コンソーシアムで創る地域資料集の作成

◇資料集の作成をプロデュース

◇地域に関する資料の収集

◇コンソーシアムとの連携・協議



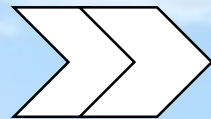
コンソーシアム委員と情報交換

Ⅱ 具体的な取組・・・「協働体制の構築・運用」

協働体制のまとめ

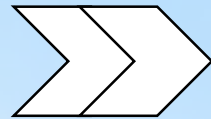
成果

◆ 地域との協働学習



日常的な協働体制の確立（授業等）

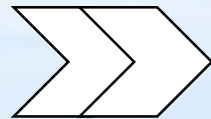
◆ 教材の開発



コンソーシアムで地域理解への検証・評価

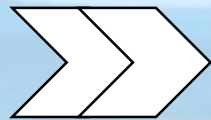
課題

◆ 島外との連携



コンソーシアムの枠を越えた協働学習

◆ 地域全体へ普及



地域全体との未来ビジョンの共有・成果普及